Ⅷ　病害虫対策

●主な病害虫

１　灰色かび病

(1) 発生部位及び症状

ア　多犯性の病気で、非常に多くの野菜等で発生します。

イ　地上部の果実や葉、茎などで発生します。

ウ　枯死した部分（花がらを含む）や傷口から発生します。

エ　病斑部分には灰色のかびが密生します。

オ　葉では褐色の大型病斑が現れます。茎や葉柄には暗褐色水浸状の病斑を生じ、病徴が進むと病斑部分より上が枯死します。

カ　生育の進んだ果実の表面に、やや輪郭が明瞭な２～３㎜の、ゴースト・スポットと呼ばれる白斑が生じる事があり、これも灰色かび病の症状の一つです。

写真　葉の上に落ちた花弁（花がら）から発病

写真　果実のゴースト・スポット

(2) 発生環境（多発の要因）

ア　被害茎葉上で越年し、翌年の発生源になります。

イ　開花後の花弁や傷口、葉先枯れ部分など、枯死や痛んだ部分から感染します。

ウ　気温20℃前後の多湿条件で多発します。

写真　循環送風機の設置例

(3)　防除方法

ア　多湿条件には注意し、特に朝つゆで作物がぬれた状態（結露）が長時間続かないよう、換気を行いましょう。

イ　循環送風機でハウス内の空気を循環させましょう。除湿効果はあまりありませんが、作物の結露時間を短縮することが出来ます。

ウ　雨天時や作物に結露がある状態では、整枝や摘心作業は控えましょう。
エ　防滴効果のあるハウス被覆資材を利用しましょう。
オ　枯死した葉や灰色かび病に罹病した部分は常に取り除きましょう。
カ　ボトキラー等の微生物農薬は予防効果のみなので、発病前に散布します。

2　葉かび病

(1) 発生部位及び症状

ア　主に葉で発生し、初発は下葉からが多く、次第に上部に広がります。
イ　葉の表面に黄変が見られ、葉裏に灰白色のビロード状のかびが群生します。
ウ　激発すると小葉が上に巻き上がり、枯死します。

写真　葉かび病が発生した葉裏部分

(2) 発生環境（多発の要因）

ア　被害葉上で越年し、翌年の発生源になります。
イ　感染後、葉の表面に黄変症状が現れるまで２週間の潜伏期間があります。
ウ　気温が20～25℃で、多湿条件により発生が多くなります。
エ　密植や過度のかん水、肥料切れが発生を助長します。

(3) 防除方法

ア　抵抗性品種を作付しましょう。ただし、抵抗性品種に対して、抵抗を打破するレースも確認されているので注意しましょう。
イ　密植や過度のかん水は避け、換気を良くしましょう。
ウ　病徴が確認出来る頃には被害がかなり進んでいるので、予防防除に努めましょう。

3　うどんこ病

(1) 発生部位及び症状

ア　主に葉で発生し、激発すると葉柄や果柄、へた等にも発生します。
イ　葉の表面にうどん粉を振りかけたような白いかびが密生します。
ウ　激発しなければ、実害は低いです。

写真　うどんこ病の被害

(2) 発生環境（多発の要因）

乾燥条件で発生が多くなります。

(3) 防除方法

換気に注意し、肥料切れをさせないようにしましょう。